

平成 19 年度海岸工学委員会（第 2 回）議事録

日時：2007 年 11 月 07 日 18 時 30 分～20 時

場所：宮崎観光ホテル

出席者：磯部委員長、佐藤幹事長、渡辺相談役、水口相談役、

青木、荒木、池谷、今村、上野、宇都宮、大平、大山、岸田（代理 岩井）、黒岩、黒木、五明、坂井、柴山、清野、武若、丹治、畑田、半沢（代理 松本）、間瀬、水谷夏、水谷法、村上、山本、横木、渡部の各委員

岡安、木村、栗山、後藤、榊山、重松、清水（代理 関本）、高木（代理 小林）、中山、灘岡、橋本、日比野、福濱、由比の各委員兼幹事、田中、富田の各幹事

1. 前回議事録の確認

2. 報告事項（佐藤，水口）

・インフラ国勢調査委員の推薦，APAC2007（南京）の開催状況，今後の国際会議の開催予定（APAC2009, Coastal Dynamics 2009, Coastal Structure 2011 等），ICCE2008, CERC の活動について報告された。

・委員会中間評価について，海岸工学委員会の評価はすべて A 評価であったが，予算は 120 万円となる。

3. 海岸工学論文集編集小委員会（間瀬，横木，佐藤）

海岸工学論文集第 54 巻の論文賞選考方法について報告があり，審議の結果承認された。合わせて，論文賞受賞対象の以下の 3 篇の論文が報告・承認された。

「工学的応用のための砕波統計量データの再整理」（合田良実）

「3 次元固気液多相乱流数値モデル DOLPHIN-3D の開発と波作用下での漂流物の動的解析」（川崎浩司・袴田充哉）

「Immersed Boundary 法による数値波動水槽の構築とその応用に関する研究－水平円柱周りの波動場への適用－」（李光浩・水谷法美）

受賞論文は C E J に投稿することを強く推薦することを確認した。

続いて，海岸工学論文集の受付システムおよび論文審査方法の改善について提案があり，審議の結果，一部修正する形で承認された。また，来年度の論文投稿・審査日程，副委員長の交代等について報告があった。他に，論文集に CD-ROM を添付することについて意見交換を行った。

関連して，幹事長より，海岸工学論文集の価格を 5000 円に設定したこと，著者負担金・論文集価格・参加費のバランスについては現行通りとすることが報告された。

4. 第 54 回海岸工学講演会の開催状況について（村上）

初日の参加者数は，509 名であることが報告された。

5.第 55 回, 56 回海岸工学講演会の開催 (由比, 佐藤, 横木)

第 55 回講演会の開催 (富山市) について, 開催日を 11 月 12,13,14 日とすること, 会場は富山国際会議場を予定していることなど, 準備状況の報告があった.

第 56 回講演会については, 茨城県で開催することとなった. 開催地は水戸を予定していることが報告された.

6.CEJ (柴山)

投稿状況は順調であること, CEJ 賞は該当論文無しとなったことについて報告があった.

7.研究小委員会の活動 (今村, 青木, 武若, 後藤, 横木)

- ・津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会

活動概要および計画について資料に基づいて報告された.

- ・沿岸域研究連携推進小委員会

現在の活動状況, および, 55 回講演会でミニシンポジウムの開催を予定していることが報告された.

- ・広報小委員会

副委員長の交代等の報告, および, 今後の活動に関する協力依頼があった.

- ・数値波動水槽研究小委員会

委員会の構成や報告書の構成案について報告があった.

- ・地球温暖化適応策検討小委員会

小委員会の設置に関して, 背景, 趣旨, 検討体制, スケジュール等について, 資料に基づいて報告された.

8.水工学に関する夏期研修会 (B コース) (橋本, 佐藤, 岡安)

今年度の開催状況 (九州大学) について報告があり, 来年度は, 開催日程を早めることが望ましいとの申し送りがあった.

来年度は, 東京開催 (担当: 岡安委員) を予定している.

9.その他

- ・海洋工学シンポジウム (大山)

予定セッション, 論文の募集要項について説明があり, 投稿の呼びかけがあった.

- ・論文の公開方法 (武若)

海岸工学論文集および CEJ の電子ファイルでの公開について, 検討状況の説明があり, CEJ は非公開, 海岸工学論文集は発行から 2 年後に公開とする方向で, 土木学会図書館に申し出ることが報告された.

- ・海洋基本計画への提言 (磯部)

委員長より, 資料に基づいて, 5つの提言の内容について説明があり, 意見交換を行った.

今後, 海岸工学委員会と海洋開発委員会で最終的な詰めを行って提言を確定することとなった.

- ・重点研究への応募（佐藤）

津波小委員会を中心として検討することとなった。

- ・委員長選挙の時期（佐藤）

11月に委員長選挙を行い、翌年6月に就任という日程の是非について意見交換を行い、今後、幹事会で検討を進めることとなった。

記録者（由比）